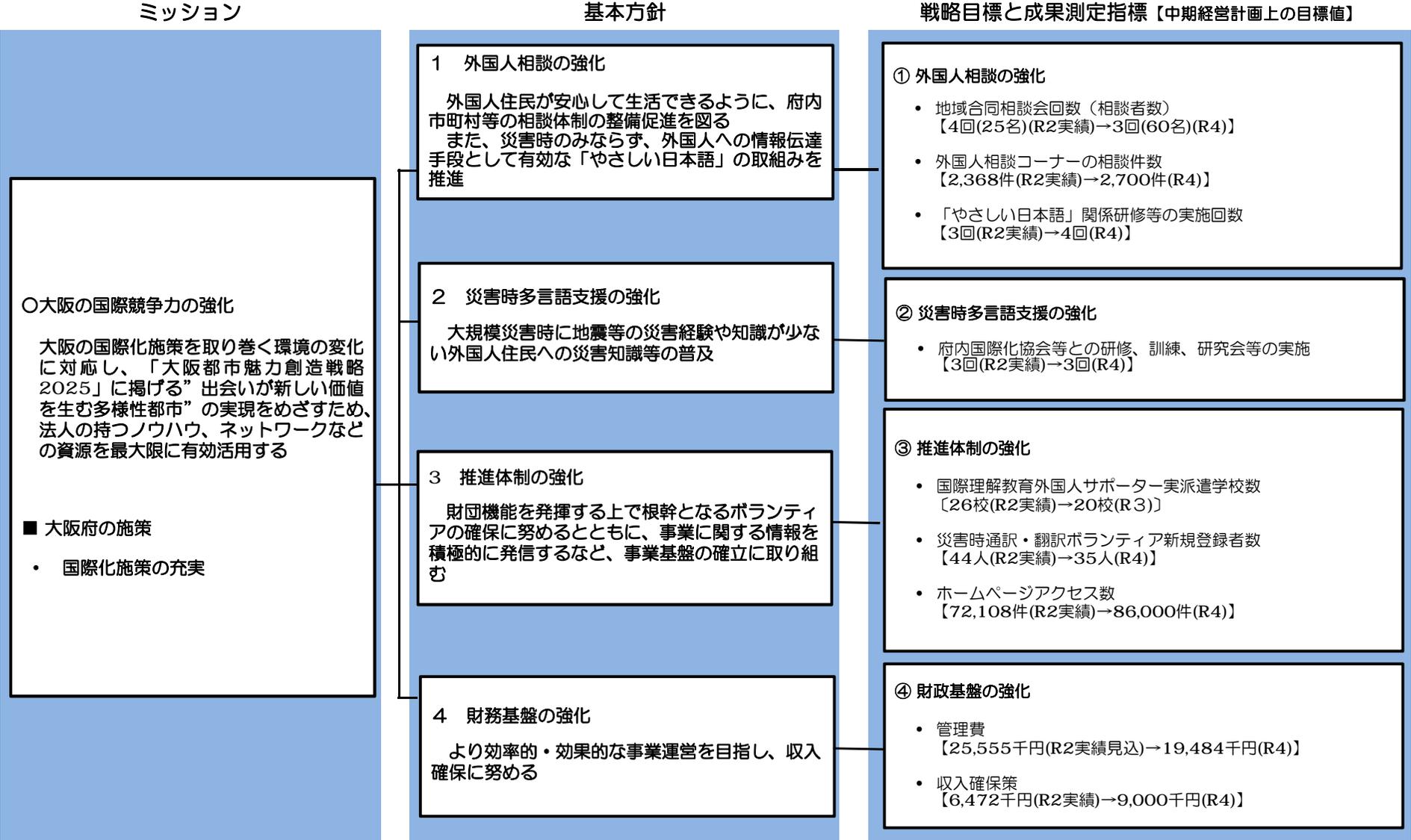


法人名	公益財団法人 大阪府国際交流財団
作成 (所管課)	府民文化部 都市魅力創造局 国際課

○ 経営目標設定の考え方



○ 令和2年度の経営目標達成状況及び令和3年度経営目標設定表

I. 最重点目標(成果測定指標)												
戦略目標	成果測定指標	新規	単位	ウエイト (R2)	R1実績値	R2		R3目標値	ウエイト (R3)	中期経営計画 (H30～R4)		R3目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載
						目標値	実績値 [見込値]			R3目標値	最終年度 目標値	
① 外国人相談の強化	地域合同相談会開設回数 <相談者数>		回 <人>	30	5 <27>	3 <40>	4 <25>	4 <50>	30	3 <50>	3 <60>	新型コロナウイルス感染症の影響が長引いており、今後の事業実施の見通しも不透明さを残すが、オンラインの活用をはじめ、開催方法の工夫などにより、少なくとも、開催回数は昨年度と同等とし、人数は中期経営計画の目標達成を目指す。
法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)											戦略目標達成のための活動事項	
最重点とする理由、 経営上の位置付け	○当財団の定款に定める事業である「外国人の受入促進・活動環境の整備」として多言語による相談・情報提供の強化を定めるとともに、中期経営計画の重点化事業として掲げた「外国人相談の強化」の具体的なプログラムとして「地域合同相談会相談者数」及び「地域合同相談会開設数」をあげている。											
最重点目標達成のための 組織の課題、改善点	○外国人住民が安心して生活するには、地域に密着した基礎自治体において、一次的な相談や情報提供を行うことが望ましい姿である。財団においては、従前から府内の市町村等と共催して「外国人一日相談会」を実施してきたが、開催時間が短時間にとどまる、相談対象者が共催市町村の在住者に限定されるなどの課題があったため、より効果的・効率的な事業をめざし、複数の市町村や行政書士等の専門家が参加する「地域合同相談会」を実施することとした。 ○一方、大阪府内の市町村外国人相談窓口の充実や、当財団の相談窓口における相談時間の拡充、専門相談の提供などによる日常的な相談体制で在住外国人のニーズが一定満たされ、一日相談会へのニーズも変化してきている。 ○今後も引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況も踏まえ、対面での相談会に限定せず、実施期間にも幅をもたせ、オンラインを活用した相談やニーズの高い専門分野の相談などに取り組む。											
活動方針	○外国人の受入促進・活動環境整備には通常の外国人情報コーナーでの取り組みとともに、外国人府民に身近な市町村での取組みが重要である。 ○このため、市町村における外国人相談窓口の普及を目指すと共に、在住外国人のニーズに沿った相談会の実施に取り組む											
	○市町村や地域の国際交流協会、これまで各事業に参加・協力いただいている行政書士等をはじめとする専門家や大学等に対して、大阪府と共に共催実施を働きかける。 ○PRにあたっては、市町村等がより参画しやすいよう実施時期やテーマについてヒアリングを行い、各市町村のニーズ把握に努める。 ○新型コロナウイルスへの対応を踏まえ、相談会の実施方法については、オンラインを活用した相談に取り組む。また、SNSを用いたより効果的な外国人への周知方法を検討する。											

II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	ウエイト (R2)	R1実績値	R2		R3目標値	ウエイト (R3)	中期経営計画 (H30～R4)		R3目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定 の場合は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
						目標値	実績値 【見込値】			R3目標値	最終年度 目標値		
① 外国人相談の強化	外国人情報コーナーの相談件数		件	10	2,204	2,100	2,368	2,400	10	2,400	2,700	中期経営計画見直しを踏まえ目標値2,400件を目指す。	○在住外国人を対象にした相談業務を実施 ○市町村での相談窓口サポート ○希少言語(英・中・韓以外)への対応強化
	「やさしい日本語」関係研修等の実施回数		回	10	3	3	3	4	10	4	4	新型コロナウイルス感染症の影響のため今後の事業実施の見通しが不透明だが、開催方法の工夫などにより、少なくとも中期経営計画の目標達成を目指す。 (情報共有や実践的な研修を年4回実施)	○外国人への情報手段として有効な「やさしい日本語」普及への取組みを実施
② 災害時多言語支援の強化	府内国際化協会等との研修、訓練、研究会等の実施		回	10	3	3	3	3	10	3	3	中期経営計画を踏まえ、災害関係会議を含め3回の開催を目指す。	○大規模災害時における相互応援体制の構築 ○ガイドブックを活用した市町村向け研修等
						3	3						
③ 推進体制の強化	国際理解教育外国人サポーター派遣校数<新規開拓学校数> ※〈〉内はR2年度まで指標として設定		校	10	43 <16>	20<5>	26<10>	↓20	10	-	-	新型コロナウイルスの影響により、学校現場からの申出が減少見込み。	○外国人留学生等をサポーターに登録し、国際理解教育授業の講師として派遣
	災害時通訳・翻訳ボランティア新規登録者数		人	10	36	35	44	↓35	10	35	35	新型コロナウイルス感染症の影響のため活動の見通しが不透明だが、少なくとも中期経営計画の35人の目標達成を目指す	○災害ボランティアへの登録促進
	ホームページアクセス数		件	5	119,183	86,000	×72,108	86,000	5	86,000	86,000	新型コロナウイルス感染症の影響のため今後の事業実施の見通しが不透明だが、中期経営計画見直しを踏まえ86,000件の目標達成を目指す。	○ホームページやSNSなどを活用した積極的な情報発信

III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

④ 財務基盤の強化	管理費		千円	5	19,581	22,555	[22,555]	19,848	5	19,432	19,484	中期経営計画の収支試算時には想定していなかった委託事業が増えたことにより、その事業にかかる管理費分を増額させた予算額とした。	○運営コスト抑制の取組みの継続
	収入確保策		千円	10	5,739	6,000	6,472	9,000	10	9,000	9,000	昨年度の実績を上回る中期経営計画の目標を目指す。	○補助金、委託金、交付金等の獲得 ○協賛金・寄付金の獲得による上乗せを図る

【凡例】
 ・☆はR3年度からの新規項目
 ・×は目標値未達成
 ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
 ・〔 〕内の数値は、参考として記入した実績見込値
 ・()内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値

CS 調査の実施概要

○令和 2 年度の実施結果

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
グローバル人材の育成の基本事業である外国人サポーター派遣事業について、OFIXが提供する内容への満足度を調査	アンケート方式	外国人サポーターを活用して国際理解教育を実施する学校（教員）と実際に授業を受講した児童・生徒	26団体	各事業終了後

実施結果の主な内容	実施結果を踏まえた取組
令和2年度に外国人サポーターを活用して国際理解教育を実施した学校（教員）と実際に授業を受講した児童・生徒を対象に実施したアンケートの結果、「大変満足」「満足」と回答したものが、92%であった。	<p>（結果を踏まえ実施した取組）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート回収時に各学校からの要望等を聞くとともに、実施にあたっては学校のニーズに応じた設定を行い、事業の魅力向上を目指し対応している。 ・また、毎年各市町村等へパンフレットを配布し、事業の周知に努めると共に、財団ホームページにおいても事業の概要や派遣依頼申込書を掲載するなど、利用促進に取り組んでいる。 ・コロナ禍での実施についても、遠隔授業や映像教材の提供など、新しい授業形式で対応しており、事前打ち合わせ等、利用者ニーズの把握に努める。 <p>（今後実施予定の取組）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策のため、体験型授業は依然として難しい状況下ではあるが、国際理解教育を実施校（教員）と児童・生徒を対象にアンケートを実施し、「大変満足」「満足」との回答の合計について、今年度同様の90%を目指す。

○令和 3 年度の実施方針

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
グローバル人材の育成の基本事業である外国人サポーター派遣事業について、OFIXが提供する内容への満足度を調査	アンケート方式	外国人サポーターを活用して国際理解教育を実施する学校（教員）と実際に授業を受講した児童・生徒	20団体	各事業終了後

■ 目標値未達成の要因について

〔1〕

R2年度の 成果測定指標	単位	R2年度の 目標値	R2年度の 実績値〔見込値〕
地域合同相談会開設回数 <相談者数>	回 <人>	3 <40>	4 <25>

未達成の 要因と分析	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、オンライン相談会を行う等実施方法の工夫に取り組んだ。 ・しかし、2月に開催予定としていた地域合同相談会2件が、緊急事態宣言発出中として開催中止となった影響もあり、相談者数について未達成となった。 ・市町村の外国人相談窓口の充実や、当財団の相談窓口の拡充等も一因と考える。
---------------	--

今後の 改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の状況も踏まえ、対面での相談会に限定せず、実施期間にも幅をもたせ、オンラインを活用した相談とともに、SNS等を活用した周知に取り組む。
-------------	--

〔2〕

R2年度の 成果測定指標	単位	R2年度の 目標値	R2年度の 実績値〔見込値〕
ホームページアクセス数	件	86,000	72,108

未達成の 要因と分析	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、観光ボランティア事業等、実施を見送った事業が多く発生したため、それに伴いホームページアクセス数も減少した。
---------------	---

今後の 改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の状況も踏まえ、オンラインでの事業運営等に取り組み、情報発信の充実を図る。
-------------	--

■ 成果測定指標変更（廃止）希望の理由について

〔1〕

●変更前

R2年度の 成果測定指標	単位	R2年度の 目標値
国際理解教育外国人サポーター 派遣校数<新規開拓学校数>	校	20 <5>

●変更後

R3年度の 成果測定指標	単位	R3年度の 目標値
国際理解教育外国人サポーター 派遣校数	校	20

成果測定指標の 変更（廃止）を 希望する理由	<p><廃止希望></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規開拓学校数の目標設定の廃止を希望 <p><理由></p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度は、令和元年度に行った広報活動等により、新規開拓校数が10校となり、計26校に派遣を行った。 ・しかし、令和3年度は、派遣校負担金の値上げ、および新型コロナウイルス感染症の影響により、国際理解教育外国人サポーターの新規派遣先学校の積極的な開拓が難しい状況下にあるため、目標値を20校とする。 ・引き続き、遠隔授業や映像教材提供等、新しい授業形式の提供等に取り組む。
------------------------------	--

〔2〕

●変更前

R2年度の 成果測定指標	単位	R2年度の 目標値

●変更後

R3年度の 成果測定指標	単位	R3年度の 目標値

成果測定指標の 変更（廃止）を 希望する理由	
------------------------------	--

■ 令和2年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔1〕

成果測定指標	単位	R2年度の実績値(見込値)	R3年度の目標値
地域合同相談会開催回数 <相談者数>	回 <人>	4 <25>	4 <50>

マイナス (現状維持) 目標の考え方	<p>・新型コロナウイルス感染症の影響が長引いており、今後の事業実施の見通しも不透明さを残すが、オンラインの活用をはじめ、開催方法の工夫や、SNSを用いた効果的な外国人への周知などに取り組み、少なくとも、開催回数は昨年度と同等とし、人数は中期経営計画の目標達成を目指す。</p>
--------------------------	---

〔2〕

成果測定指標	単位	R2年度の実績値(見込値)	R3年度の目標値
府内国際化協会等との研修、訓練、研究会等の実施	回	3	3

マイナス (現状維持) 目標の考え方	<p>・令和2年度は、新型コロナウイルス感染症を災害とらえた多言語支援等に関する情報交換や研修等をオンライン形式等で実施した。</p> <p>・講義形式の研修等についてはオンライン開催が可能だが、本来重視している実習やワークショップ形式の研修等はオンラインでは対応できないものもある。</p> <p>・令和3年度も新型コロナウイルスの影響が続くことが予想されるため、少なくとも、中期経営計画の目標達成を目指す。</p>
--------------------------	---

■ 令和2年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔3〕

成果測定指標	単位	R2年度の実績値(見込値)	R3年度の目標値
国際理解教育外国人サポーター派遣校数	校	26	20

マイナス (現状維持) 目標の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度は、令和元年度に行った広報活動等により、新規開拓校数が10校となり、計26校に派遣を行った。 ・しかし、令和3年度は、派遣校負担金の値上げ、および新型コロナウイルス感染症の影響により、国際理解教育外国人サポーターの新規派遣先学校の積極的な開拓が難しい状況下にあるため、目標値を20校とする。 ・引き続き、遠隔授業や映像教材提供等、新しい授業形式の提供等に取り組む。
-----------------------------------	---

〔4〕

成果測定指標	単位	R2年度の実績値(見込値)	R3年度の目標値
災害時通訳・翻訳ボランティア新規登録者数	人	44	35

マイナス (現状維持) 目標の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア人材登録については、関西大学、追手門学院大学、大阪大学と協定を締結するなど、ボランティア確保に努めている。 ・令和2年度は、観光ボランティアからの登録者の増もあり、新規登録者数は目標値を上回り44名となった。 ・令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、活動が限定的になると予想されるため、少なくとも中期経営計画の目標値である35人の達成を目指す。
-----------------------------------	---